

技術でオンリーワン企業を目指し、高精度、高付加価値製品にシフト

株式会社 カフィール

収益構造を変換させるべく、高付加価値製品に特化

カフィールは、非常に精度を求められる光学プラスチックレンズに特化した製造メーカーだ。川上社長にお話を聞くと、高付加価値製品に特化し、製造を安定させるまでは相当の苦労があったという。「2000年にエンジニアリングプラスチックから光学プラスチックレンズに特化しました。当時は家電のパーツを製造していましたが、忙しい割に利益が出なかったんです。そこで、レンズ関係のクライアントがいたので、光学プラスチックレンズに特化することにしました。高精度の製品は付加価値も高いですからね。技術的な課題も多かったのですが、高付加価値製品をやらないと生き残れないと感じていました」

光学レンズは、大手メーカーの専門子会

社が製造していることが多いが、中小企業者がこれらのレンズを求める場合は、手に入りにくかったり、高価な場合があるため、独立系企業が製造するレンズは、ニーズが高いと考えた。「特化した当初は厳しかったです。それでも、機械を改造し、工場長は1年半、パートさんも1週間程度、大手レンズ製造メーカーで研修を受けました。この研修によって、製品に対する誇りが生まれ、商品や現場のレベルがアップしました。現在は、工場ですでに使われるセンサー系レンズを中心に製造しています」

24時間自動製造体制に加え、徹底したコストダウンと品質管理
成形部品製造の業界では24時間操業が当たり前なのだという。

「24時間稼働ですから、製造量は決まっ

ています。いかに省力化してコストを下げるかが勝負です。弊社では、製品をコンベアーで流さずにストッカーに入れる方法を採用しました。日本では、製品が出てくると、ロボットが製品をコンベアーに流して人間がゲートカットや梱包をします。カフィールはコンベアーの代わりにストッカーを使い、ロボットがストッカーを交換します。これにより、従業員の夜勤がなくなり、コスト削減を実現できたのです」

工場は24時間無人で、1日3回の巡回検査のみ。大幅な人件費ダウンを実現し、それが製品価格にも反映されている。

「現在、クライアントの要求精度はミクロン単位となっており、これからもどんどん上がっていきます。それに対応するため、成形機メーカーと協力して機械を改造しています。また、クリーンルームを設置し、クリーンで温度や湿度の安定した環境の中で機械を稼働させることもしています」

高精度のプラスチックレンズ製造や、クリーンかつ管理された環境を備えた工場は、カフィールにとって大きな優位性だ。

「今期のスローガンは『ちょっとオンリーワン』なんです。理想はオンリーワンですが、ちょっとオンリーワンで充分。2009年に『モノづくり企業300社』に選ばれ、他社よりもレベルが高い仕事をしていると認めていただけたと、社員も誇りを持って仕事をしています」



工場内写真



クリーンで清潔な環境で製造が行われている



光学プラスチックレンズの製品サンプル

義理、人情、浪花節……。人材を大切にせる企業に

川上社長は、人材が収益や職場環境に影響を与えると考え、特に配慮している。「大手メーカーへの研修は、正社員にもパートさんにも行ってもらいました。すると、製品のさわり方一つから変わりました。すると製品精度も変わった。作るのは機械ですが、働く人の意識で製品の精度は変わるんですよ」

スタッフの定着率は非常に高いという。

「若い子育て中の女性に内職をお願いすることが多いのですが、子供の手が離れた頃に会社に働きに来てもらうんです。そうすると、その方の性格もわかっていますし、既に人間関係ができていたので職場環境も安定します。一人が放つ雰囲気職場の生産性を左右することもありますからね。スタッフの素晴らしい人間性もカフィールの強みですよ」

大切にしているのは会社内の関係だけではない。地域に貢献し、愛される会社を目指しているという。

「ご近所さんに『あの会社は作っているものはよく知らないが良い会社だ』と思ってもらいたいです。職場や地域の和を大切にし、義理、人情、浪花節を感じる会社でありたいですね」

産学官連携で、さらなる微細加工技術を研究

2007年、医療分野等で使用される3次元微細形状をもった測定チップの高精度金型加工と高精度成形の研究開発が戦略的基盤技術高度化支援事業に採択され、近畿精工、滋賀県立大学、滋賀県東北部工業技術センターと民間企業や近畿地区の他大学との産学官連携で取り組むことになった。要求精度が従来製品よりワンランク上のため、中小零細企業が単独で取り組むには限界があったのだ。

「近畿精工さんは、良い金型技術を持っていると聞いていましたし、社長と私の間には共通点が多く、意気投合したんです。滋賀県立大学の中川先生も『日本をモノづくり大国にしなければ』という志を持った先生です」

機械メーカーや原料商社によると、一昨年のリーマンショックでも食品関係と医療関係の成形メーカーは仕事が減ることはなかったという。また、高齢化社会が進むにつれ、医療関係の市場は成長していくと予測している。

「今回の取り組みはカフィールがそのジャンルに挑戦する第一歩なのです」

技術のオンリーワンを目指し、高付加価値製品を極めたい!

今後は、今以上に微細で高精度な加工が必要なレンズのニーズが高まると見ている。

「何のオンリーワンになるかが問題ですが、規模を追いかけつつもありません。どこにも真似できない技術のオンリーワンを目指します。一種の研究的な、技術に特化した会社にするのが理想です。今後も付加価値の高い製品に特化して、さらに高精度を追求したいですね」

ただ、中小企業が最終製品を自ら開発し、市場のマーケティングを行い、販路を開拓するのは難しいという。

「中小製造業の多くは、大手企業の仕事を請け負うことが多いんです。行政には、大手企業がきちんと国内に製造拠点を残し、市場として海外を取り込むような施策を取って欲しいですね。そうすれば、日本の製造業はもっと強くなると思います。『日本のモノづくり』を大切にしたいんです」

取材協力/Short Cappuccino 中直照



成形された製品はそのままストッカーに入る

株式会社 カフィール

〔住 所〕 滋賀県長浜市湖北町速水225番地1
〔業 種〕 光学プラスチックレンズ部品のほかの製造
〔代 表 者〕 代表取締役 川上忠嗣
〔資 本 金〕 2,500万円
〔従 業 員 数〕 約15名
〔取 材 日〕 平成22年9月16日(木)
〔取材対象者〕 代表取締役 川上忠嗣氏

〔沿革〕
昭和48年6月 設立
平成12年8月 工場改装。プラスチックレンズ、精密成形品に特化
平成16年9月 経営革新計画認定
平成19年8月 戦略的基盤技術高度化支援事業に採択
平成20年4月 「2008KANSAIモノ作り元気企業100社」認定
平成21年4月 「2009元気なモノづくり中小企業300社」認定

代表取締役
川上忠嗣氏

